

～狂言師の野村萬斎さん監修・演出～ 新作狂言『根日女（ねひめ）』を演じ、楽しく学びます



野村萬斎さん

平成 27 年 5 月に「播磨国風土記 1300 年祭」で、野村萬斎さん監修・演出の新作狂言『根日女』を演じた加西市こども狂言塾。加西市の狂言文化を継承していく第 5 期生を募集します。

狂言は 2001 年にユネスコ（国連教育科学文化機関）によって、「世界無形文化遺産」に認定された室町時代から続く日本の伝統芸能で、国語の教科書にも取り入れられています。お稽古を通じ、加西市をはじめとする播磨地域の郷土の歴史や日本の伝統文化に触れる貴重な経験をしてみませんか。

公開お稽古

万作の会の講師によるお稽古を公開します。入塾を検討されている方は、ぜひ参加ください（参加無料、要予約）。

日時／2月19日（月）、3月31日（土）
18:00～21:00

場所／サカイダンスアカデミー
（加西市北条町横尾 1068）

申込先／文化・観光・スポーツ課
☎ 42-8756

- ポイント／①毎年5月に舞台上で、新作狂言「根日女」を演じます。
②作法や立ち居振る舞いなど、礼儀作法も身につきます。
③初心者でもプロの狂言師が丁寧に指導します。

■稽古日／平成 30 年 4 月から 31 年 5 月までの金曜日を予定（月 2 回程度）19:00～21:00

■講師／万作の会（野村萬斎さん事務所）、こども狂言塾応援隊

■対象／播磨地域在住の小学 3～5 年生（2 月 1 日現在）

■会場／市民会館、サカイダンスアカデミーほか（加西市内）

■定員／20 人 ※ 4 月上旬に簡単な面談を行います。

■受講料／市内の方は月 1,000 円、市外の方は月 2,000 円

■申込／申込書（市ホームページ）に記入の上、郵送または FAX、メールで申し込みください。

■募集期間／4 月 2 日（月）まで

■申込先／〒 675-2395 加西市北条町横尾 1000

文化・観光・スポーツ課 ☎ 42-8756 FAX 42-8745
kanko@city.kasai.lg.jp



昨年 5 月の「第 2 回加西能」（市民会館）で、新作狂言『根日女』を精一杯演じたこども狂言塾の塾生

■お稽古に励む塾生から一言

杉本倫都さん（賀茂小 6 年）／こども狂言塾では、他校の友達とも一緒に楽しく狂言を学ぶことができます。僕は、お稽古を通じて、礼儀作法や独特な発声方法を覚え、お腹の底から大きな声を出すことができました。また、舞台での演技が終わると達成感がとてもあり、学校生活でも自信が持てるようになりました。

馬場ゆきねさん（西在田小 5 年）／狂言は、昔の言葉で少し難しいですが、「お笑い」なのでとてもおもしろく、人間以外にも昆虫の蚊や猿などたくさんの動物も登場します。動物によって鳴き方も違い、犬は「ビョウビョウビョウ」と鳴きます。とてもおもしろいので一緒に狂言をしてみませんか。

平成30年のお稽古がスタート

こども狂言塾の小学 3～6 年生 22 人が 1 月 12 日、平成 30 年のお稽古を始めました。塾生は、5 月 4 日の「第 3 回加西能」（市民会館文化ホール）に向け、プロの狂言師やこども狂言塾応援隊から狂言の所作や発声を教わり、新作狂言『根日女』のお稽古を繰り返しました。

今後もお稽古に励み、こども狂言塾の塾生と応援隊のメンバーらが、全国に誇るふるさとの歴史を、狂言を通じて継承していきます。



「万作の会」の狂言師（左）から狂言の所作を教わる塾生

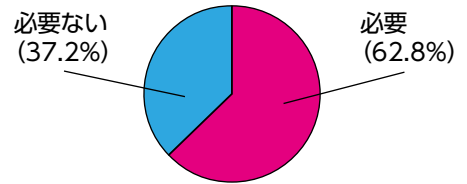
「2018 新成人のつどい」が1月7日、健康福祉会館で開催され、新成人308人（対象は469人）の参加がありました。

昨年は、会場での飲酒などがあり、成人式の必要性について、新成人や市民にアンケートを実施。回答のあった164人のうち必要と回答したのが約6割あり、開催の在り方について新成人による実行委員会のもとで検討した結果、今年は式典を取りやめ、立食スタイルに変更しました。

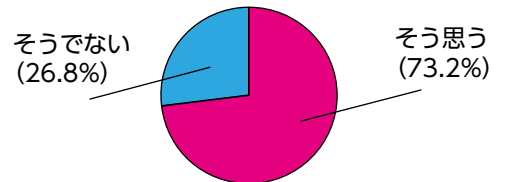
西村和平市長が「新しいことに積極的にチャレンジしてほしい。一緒に加西市を盛り上げていきましょう」とあいさつ。新成人を代表して高田凌平さん（下道山町）が「これからの人生は自分で決めることが多くなる。自ら進んでいく成人になりたい」と力強く誓いました。その後、加西市についてのクイズや特産品が当たる抽選会などを楽しみ、久しぶりに会う友人たちと旧交を温めました。

■新成人や市民へのアンケート結果（164人）

○成人式は必要か



○友達との再会や同窓会の場があればよいか



久しぶりの再会に交流を深める参加者



高田凌平さんが誓いの言葉を述べました

加西産ブランド牛「加西ねひめビーフ」誕生

JA 兵庫みらいと加西市、加西ブランド協議会が連携して、新たなブランド牛「加西ねひめビーフ」が誕生しました。

加西市は但馬牛の産地の一つであり、これまででも加西市肉牛肥育研究会の会員である肥育農家が、兵庫県が誇るブランド牛「神戸ビーフ」「但馬牛」を多数出荷してきました。このたび、産地としての認知度向上および肥育農家の生産意欲向上を図るため、ブランド化に至りました。

播磨国風土記に記されている伝説の「根日女（ねひめ）」にちなみ、「加西ねひめビーフ」と命名。この歴史の源である恵まれた風土、但馬牛の堂々とした風格、そこから生み出される豊かな風味は、加西ブランドを象徴する特産品です。当面はふるさと納税の返礼品として、すき焼き用コース肉などで取り扱い、順次販路を広げていく予定です。

■加西ねひめビーフの定義

- ・兵庫県産但馬牛を素牛として市内で育てられた黒毛和牛であること
- ・公益社団法人日本食肉格付協会により格付けされたものであること



すき焼き用の加西ねひめビーフ



12月23日には、かさい愛菜館で試食会・即売会が開催されました